

# バイオマス取組事例概要

《農林水産省農村振興局長賞》

- ・ 応募主体 太平洋セメント株式会社津久見工場
- ・ 都道府県・市町村 大分県津久見市
- ・ 取組分野 木質直接燃焼、セメント原料

## 取組概要

間伐材・製材端材(地元森林組合と受入協定を締結)や建設廃材をセメント製造過程で必要な熱源として利用。焼却灰はセメント原料として利用。

建設発生木材、間伐材や製材端材等の未利用木質資源をセメント製造過程の燃料として利用することで、木質バイオマスの有効利用を図る。

化石燃料から木質バイオマス資源への燃料転換を図ることにより、CO<sub>2</sub>排出削減、環境保全に寄与。



建設発生木材



根株



多様な形状をもつ木質バイオマス資源をチップ状に粉砕し、焼却炉(セメント焼却炉)に投入。

セメント製造工程の燃料として、石炭の代替燃料として利活用。

焼却後の灰については、セメント原料としてマテリアルリサイクルする「完結型」の再資源化システムを構築している。

施設の経済性については、廃材の処理費を課して受け入れていることから、収支バランスが健全となっている。

原料とする建設発生木材、間伐材、製材端材等は、大分県下各地を中心として九州一円から調達している。土木工事で発生する木材は、県下13カ所の仮設場にて受入体制を整備し、未利用間伐材(500t/年)は臼津関森林組合との受入協定を締結して、計画的な受入を確保するとともに、間伐を促進するために移動式木材破砕機を導入して林内に放置されている形状不良木回収にあたるなど、健全な森林育成に寄与している。

将来的(H19年度)には、22,500t/年の廃木材を受入れする予定であり、大分県から発生する廃木材(8万t/年)の約28%を占める。